

1. 調査報告概要表

作成日 2010年4月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1072300138
法人名	特定非営利活動法人かがやき友の会
事業所名	共に生きる老人の家 かがやき入野ホーム
所在地	群馬県高崎市吉井町小暮 568-1 (電話) 027-388-5415
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7
訪問調査日	平成22年3月17日

【情報提供票より】(22年 2月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 8 年 12 月 29 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 8 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7.8 人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄筋瓦葺き2階建て 造り		
	2階建ての 階 ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,200 円/日	その他の経費(月額)	250 円/日	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 300,000 円 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,000 円				

(4) 利用者の概要(2月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低 79 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	はるな生協 高崎中央病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームとしての実践の歴史は長く、設立当初の思いや経験を生かしながらも、継続維持にとどまることなく現状の課題として職員研修や防災訓練でも前向きに取り組もうとする姿勢が感じられるホームである。和気あいあいとした雰囲気に加え、個人の思いを受け止めるために『待ちの姿勢』を大事にしており、居室には思い思いのものが持ち込まれ個性ある雰囲気ができている。運営推進会議が中心になって認知症サポーター養成講座を開いたり、行政と協力して認知症に関する情報発信地としての活動も積極的に行っていきたいという思いも持っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 運営推進会議は2カ月に1度開催し、様々な意見交換ができ、会議が中心になった地域活動も実施した。災害対策では、今年度は2回の避難訓練を実施したが、消防署の協力は22年度に計画している。地域の協力依頼や消火訓練等、今後も引き続き検討していくことが必要と自覚している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は現状の課題に気づききっかけととらえ、職員が分担して取り組み、まとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2カ月に1度開催するようになり、以前に比べ情報交換や意見交換ができるようになった。認知症サポーター養成講座も運営推進会議が主体になって進め、開催できた。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からの意見は、面会時や年に2回開く家族会の時に開いたり意見箱を設置して意見等、出しやすい雰囲気づくりを工夫している。出された意見は広報紙「かがやき友の会ニュース」で紹介し、ホームの対応状況も伝えるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 一般家庭と同じように自治会に加入して地域との関わりをもつようにしている。近所の住人も野菜などを持って気軽に立ち寄りお茶を飲んで行ってくれる。保育園や小学校の行事、買い物や祭りなどを通じた交流も行われている。今後は災害時や防災面での連携を検討していきたいと考えている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	2008年10月に、「住み慣れた地域、家族、友達がいる町で安心して暮らせる町づくり・・・」と、地域の人々と協力・連携していくことを理念とした。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を意識するよう朝礼をはじめ会議や日業生活の中で話し合うようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、一般家庭と同じように地区の付き合いをしている。近所の住民も気軽に立ち寄り野菜を置いて行ったりお茶を飲んで行ってくれる。保育園や小学校との交流や、町からもバザー品をいただいたりしている。今後は防災面での協力に取り組んでいきたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は、朝礼で項目ごとに説明し改善している。運営推進会議は2カ月ごとに開催し、防災訓練も23年度には消防署の立会いを計画している。自己評価は、職員が業務の改善に向けた視点が持てるよう分担して作成したものをまとめた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月ごとに運営推進会議を開催することで、参加者の意見交換が盛んになった。会議が主体になって認知症サポーター講座も開催できた。会議のお知らせは、参加できそうな3名程の家族にだけ出している。	○	有意義な情報交換が盛んに行われ内容の充実も感じられる会議となっているため、多くの家族が参加して自由に意見交換できることを理解してもらえよう、会議開催時には全家族にお知らせしてはどうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の合併後は、市の担当者が定期的に運営推進会議にも参加するようになり、以前よりも意見交換や情報提供も気軽にできる関係ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は多く、その都度日常生活の様子を伝えるようにしている。3カ月ごとに「かがやき友の会ニュース」を発行し、ホームの行事や家族からの意見とホームの対応など、様々な内容を工夫して伝えている。今後は家族へ個別に手紙も出していきたくと考えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が不満や苦情を出しやすいよう声かけや投書箱を置いている。また寄せられた意見は「かがやき友の会ニュース」で全家族に紹介し、ホームの運営に活かせるよう対応状況も説明している。年に2回は家族会を開催し意見交換も行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の希望や経験を踏まへ事業所内で1年に1～2名程度の異動はあるが、利用者や家族が不安にならないよう配慮している。また職員の紹介も「かがやき友の会ニュース」で知らせている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員は3ヶ月間自己評価票を活用して業務内容の把握状況を確認するようにしている。初任者研修や連絡協議会が行っている研修を職員に提示し、積極的に参加していく方向で考えている。ホーム独自の研修も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との意見交換は盛んに行っている。職員の交換研修も予定していきたくと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に同じ敷地内のデイサービスを利用している場合もあるが、まずは見学してもらい気に入ってもらったうえで利用してもらえるよう『待ち』の姿勢を重視している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できることは一緒に行いながら、それぞれの思いを共有するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事をしながら食べたいものを聞いたり、昔話を聞きながら行きたいところを教えてもらったり、家族等の情報をもとに本人の思いを受け止めるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	情報を集めアセスメントを行い本人、家族の意見を聞きながら介護計画を作成している。また、職員は介護計画の重要性を意識できるよう計画作成にあたって原案を出しあっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に対するモニタリングは1カ月ごとに行っているが、定期的な見直しについては6カ月から1年で計画の見直しをしている。	○	介護計画は利用者の状態に応じて見直しをしていることをその都度家族に確認してもらうために、定期的に3カ月ごとに見直しをしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望や状況に応じて、受診の支援や自宅訪問・買い物等、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医を受診できるよう支援している。協力医は月に1度、往診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	平成21年に定めた『重度化対応に関する指針』を家族会で説明し家族から署名をもらっている。実際には家族や関係者でその都度話し合いながら対応するようにしている。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りを重視した声かけや対応を心掛けている。個人情報の取り扱いは、スタッフルームやロッカールームで管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日のリズムはあるが、強制はせず『待ちの姿勢』を大切に支援をしている。外出や入浴も本人の希望や体調を考慮しながら進めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや下ごしらえなど一緒にできることをしたり、調理の様子を見てもらったりしている。職員も一緒に食卓を囲み、味つけや食材の話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2～3回、入浴してもらえるように支援している。希望があれば、毎日でも夜でも対応している。足浴は希望や必要に応じていつでも支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみやテーブル拭き、お茶パック作りや食事の下準備、草むしりや犬の散歩など能力に応じて楽しみながらできるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には庭やテラスで日光浴や散歩・ドライブなどに出かけている。室内で立ち上がった際にどんなことがしたいのかをその時々で聞きながら、安心して過ごせるよう支援するよう心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜間は施錠するが、日中は自由に出入りできるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年度は8・10月に昼間を想定した避難訓練を実施した。消防署への協力までは至らなかったため、来年度は計画している。	○	来年度は消防署の協力も計画されており、合わせて夜間を想定した訓練や消火訓練も実施できることを期待したい。運営推進会議でも取り上げ、区や近隣への協力依頼や連絡体制の整備をどのように進めるかなども検討してみてはどうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量については、利用者全員の1日の摂取量をチェックしているが、食事に関しては介助が必要な人や観察が必要な人だけチェックしている。	○	健康管理の観点から食事摂取量についても、主治医や家族に具体的な経過を報告できるよう全員の状況を確認することを望む。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内は行事の写真や季節の花が飾られている。たくさんのぬいぐるみもあり温かく明るい雰囲気である。気軽にベランダや庭でも過ごせ、居心地良く過ごせる環境ができています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれが思い思いに仏壇やタンス、家具や写真を持ち込み安心して過ごせる居室になるよう工夫している。		